

「81・3闘争」を想起し、『60・3』を粉碎せよ



労農連帯の実力にかけても、「成田縮小」攻撃をうち破ろう！

日刊 動労千葉

84. 12. 1

No. 1806

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

1/20 成田支部定期大会（支部通 信員・発）

成田支部定期大会は十一月二十日、運転区講習室に來賓の小川衆院議員、成田平和を守る市民の会の小川氏、反対同盟の郡司とめさん、関川前委員長、本部より水野副委員長、布施書記長、森内特執を迎え、組合員二二〇名中八四名の参加をもって開催され、むこう一年間の闘う方針を確立した。

「60・3」

と対決し闘う

― 日暮支部長

あいさつ ―

中島執行委員の、「一年間の総括と来年度の運動方針を討論し、満場一致で決

定してほしい」との力強い司会者あいさつにより始まり、議長団に乗務員分科の石井一雄氏と鈴木三男氏が選出された。

日暮支部長があいさつに立ち、「成田支部は『三里塚・国鉄を基軸に闘う』路線のもと『3・25』『10・10』三里塚五割動員を実現してきた。しかし動労『本部』革マルは『三本柱』をはじめ、次々と国鉄労働者を裏切ってきた。七月には我孫子線沿線でピラマキを行い、当局と一体となった成田運転区廃止を策動した。その動きをいち早く察知した支部は全力で闘い我孫子線を守りぬいた。十一月十五日には『60・3ダイ改』提案がなされ成田支部は三〇数名が削減されようとしている。これからも『61・X』、『62・X』の『ダイ改』が行なわれるだろうが、首を引っこめていては解決しない。『81・3闘争』を思い起こし、真向から対決していかねばならない」と挨拶した。

一心同体となって闘う

― 郡司とめさん ―

次いで來賓あいさつに入り、関川前委員長は、「成田支部の伝統を守り闘いぬいてほしい。私も微力ながら後押しをしていきたい」と発言された。本部を代表して、水野副委員長は「『60・3合理化』は一二八〇キロの業務増でありながら三〇九名の人減らしを行う、『分割・民営』を前提とした合理化である。従って『60・3』にとどまるものではなく、動労千葉は組織の命運をかけて闘いぬかねばならない。共に手をたずさえ、団結して決起していききたい」と決意を述べた。

次いで、中江氏は「『戦後政治の総決算』を

けた攻撃により、戦後三〇年かけて勝ち取ってきたものがこの五年間でくずれてしまった。一九四九年のレッドバージの時の状況とまったく同じであり、レッドバージの二年後には朝鮮戦争が始まった。当局は労働運動の解体をねらっており、全国の労働者がわれわれの闘う路線に期待している。この気持にこたえることが重要だ。地域と職場の闘いを結合し、私も共に闘っていききたい」と、連帯のあいさつを行った。

次いで、菱田現地集会の途中でかけつけられた反対同盟の郡司とめさんは、「動労千葉の皆さんが大合理化攻撃を受けていますが、反対同盟も一心同体となって闘っていききたい」とあいさつされた。

大会宣言を採択し成功裡に終了

執行部より「経過報告」、「運動方針」、「予算案」などが提案され、質疑応答に移った。代議員からは、①「60・3ダイ改」の現況、②北鹿島の点呼問題、③「60・3ダイ改」での成田運転区の実態、等の質問が出され、執行部答弁と本部・布施書記長より総括答弁をうけた。最後に大会宣言が発表され、満場一致で採択された後、日暮支部長の団結カンパローをもって成功裡に終了した。

10 定期委員会

積極的傍聴で、成功かちとろう！

・「60・3ダイ改」阻止、三里塚

― 国鉄決戦勝利！

・必勝・不拔の闘争体制をうち固めよう！

日時：十二月八日（土） 十時

場所：労働者福祉センター